

様式1

令和4年度 学校評価表

学校教育目標	凜とした「元氣・感動・温もり」のある生徒の育成		
a ミッション	学びを探究し、未来を“そうそう”する生徒の育成	a ビジョン	職員が笑顔で生徒の前に立てる学校 ○生徒が安心して学べ、確実に力を付けることができる学校 ○保護者や地域からも信頼され、任せてもらえる学校 ○教職員がやりがいと喜びをもち、笑顔で取り組める学校

尾道市立長江中学校

評価計画				自己評価					学校関係者評価			改善計画		
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 年度達成	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
					達成値	達成値	達成値			イ	ロ	ハ		
凜とした「元氣・感動・温もり」のある生徒の育成	主体性・協調性を育む探究的な学習の推進	○学習内容の確実な定着及び活用 ・知的好奇心を喚起する授業実践 ・新たな価値観を見いだせる授業づくり	・各教員、「探究」に係る年1回以上の研究授業実施  ・各教科1単元以上の単元開発(更新)  ・小中の接続を意識し、9年間を見通した総合的な学習の時間の単元開発	①生徒アンケートの「授業では解決しようとする課題について、『なぜだろう』、『やってみよう』と思えます。」旨の問いに肯定的に回答している生徒の割合(昨年度80%) ②全国学力・学習状況調査における全教科平均通過率(昨年度:県差+5P) ③英語能力判定テストにおける当該学年英検レベル到達生徒の割合(昨年度:3級(3年)66%、4級(2年)86%) ④9年間を見通した総合的な学習の時間の授業公開(今年度2年目)	① 90% ② 県差+8P ③ 3級(3年)70%、4級(2年)85% ④ 12月に公開	① 84% ② 国78P数60P理53P ③ 3年48名79%、2年未発表54名86% ④ 12月に公開	① 80% ② 国78P数60P理53P ③ 3年48名79%、2年未発表54名86% ④ 1月に公開	① 89% ② 国9P数10P理4P ③ 3年112 ④ 2年123 ⑤ 4月に公開	A	○前期比6%、昨年同期と比べ学年肯定的評価差が減少の傾向。 ○生徒アンケート(12月)結果のうち関連項目【授業では「できた」「わかった」と感じることがあります】の平均値84.9%  ○県平均通過率教科:国語、数学3教科積算合計+23P ○理科は「エネルギー」領域に課題有り。  ○2学年4級以上該当者のうち、「4級以上」レベル到達割合は4.4、4%  ○コロナ禍のため校内研究会に替えて実施。今後とも長江小と連携の継続を実施する。	○	○	○評価指標に基づいた達成値により示されたミッションに迫ることができている。前年度の改善が進んだと捉える。  ○設定された評価指標および目標値に達成未済に該当する生徒へのきめ細やかな指導を引き続き期待する。  ○OSSRに入室している生徒に対し、今後とも工夫された指導を期待する。	○生徒アンケート結果を精査し、否定的評価に該当する生徒の状況分析及び個別に対応できる指導方法の検討にあたる。  ○調査結果を精査し、特に領域別の課題について分析を実施。通過率の低い生徒への背景分析と個別に対応できる指導方法の検討にあたる。  ○結果資料をもとに領域、設問等の通過率状況の分析を実施。分析結果をもとに指導方法の工夫、改善を図る。  ○管理職間、研究主任間における小中連携を密にする。また、小中共通の教材・教員ツールを活用した指導を推進する。
	人間力を高める教育実践	○「学びの風土づくり」三原則の徹底と深化による「長江フライド」の醸成と自己肯定感の向上	・生徒が主体的に企画する活動(挨拶運動や地域貢献活動等)への支援  ・生徒の主体的な活動に対する教師による肯定的評価の実施	①生徒アンケートの「自ら進んで挨拶をしている」旨の問いに肯定的に回答している生徒の割合(昨年度90%) ②教師アンケートの「自分は、生徒が自ら進んで挨拶をするよう、指導している」旨の問いに肯定的に回答している教師の割合(昨年度100%) ③生徒アンケートの「自分には良いところがある」旨の問いに肯定的に回答している生徒の割合(昨年度74%) ④生徒アンケートの「自分のよさは、まわりの人から認められていると思う」旨の問いに肯定的に回答している生徒の割合(昨年度82%)	① 90% ② 100% ③ 80% ④ 85%	① 91% ② 100% ③ 76% ④ 83%	① 90% ② 100% ③ 77% ④ 88%	① 100% ② 100% ③ 96% ④ 103%	A	○概ね目標値と同値。生徒の実態や状況により挨拶の意義等にふれた指導を学校生活の全ての機会を捉えながら長期的なスパンで実施していく。  ○全職員、挨拶の実施と各業務等を関連付けながら工夫された指導を実施。生徒アンケート結果の生活上に係る項目の肯定的評価の数値向上に寄与。  ○行事等の工夫により3学年において数値の向上を果たす。  ○学年、生徒指導担当、SC、SSW等との連携により生徒の実態を共有する場設定し指導にあたる。後は個に応じた指導体制を構築する。	○	○	○今後、新型コロナ対応において中止されていた行事の実施が想定される。学校生活の全ての機会を捉えながら長期的なスパンで実施していく。  ○多くの校区から集うことが学びの強みとなるよう期待する。  ○評価指標結果の昨年度比向上を評価したい。	○生徒会活動を主とした特別活動、道徳、総合的な学習の時間等、全ての教育活動をととし、挨拶の意義、意味等について指導を継続していく。  ○Hyper-QU等調査結果をもとにした生徒や学級の状態の客観的・多面的な把握をする。  ○全校集会、学年集会等を計画的に実施し、生徒に肯定的評価ができる場を設定する。  ○行事、キャリア教育、進路学習のカリキュラム関連を再確認し、自己と学級・学校や社会との関わりについて考えさせ、自己の良さ、集団への寄与について振り返ることを重視した授業改善を図る。
	職員が笑顔で生徒の前に立てる職場環境	○働き方改革の推進(業務改善への志向を含む)	・行事等の精選(スクラップ&ビルド) ・複数顧問体制による部活動業務の改善	①月あたりの時間外勤務時間が80時間超の人数の割合(昨年度0%) ②月あたりの時間外勤務時間が45時間未満の人数(昨年度4名)	①10%未満(4~12月平均) ②2名以上(4~12月平均)	①17%(4~8月平均) ②4名(4~8月平均)	①7%(9~1月平均) ②4名(9~1月平均)	①38%(4~8月平均) ②230(4~8月平均)	A	○時期により、時間外勤務時間が増加する傾向あり。今後、当該者へ聞き取り・面談を計画的に実施(週1回ペース)、個別業務の精選・省力化の工夫を提示していく。 ○働き方改革アンケート(令和4年度第2回)結果項目「現雇・生徒と向かい合う時間が確保されている」63.3%(市平均▲12.8P)。	○	○	○学級減に伴い、時間外の勤務時間も時期により増加が示された。教務支援員の先生方をはじめ、SC、SSW等の先生方との連携をとり、業務改善への向上を期待する。  ○働き方改革アンケート結果において昨年度比減の項目が気になる。	○該当職員への計画的な面談の実施、個別業務の精選およびスクラップ事項の抽出を図る。  ○学校環境整備の推進、文書・データ管理の工夫を図りながら業務の省力化を図る。

【自己評価 評価】  
A: 100≦(目標達成)  
C: 60≦(もう少し) < 80  
B: 80≦(ほぼ達成) < 100  
D: (できていない) < 60

【外部評価】 イ: 自己評価は適正である。ロ: 自己評価は適正でない。 ハ: わからない。